



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月9日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 栄輔  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 川越 勉 (TEL) 03-5487-7371  
 経営サポート本部長  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	16,131	△1.1	226	△39.1	287	△33.3	189	△35.0
2019年3月期第1四半期	16,317	△5.9	372	△62.0	431	△58.3	291	△60.5

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 271百万円(△41.1%) 2019年3月期第1四半期 461百万円(△58.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2020年3月期第1四半期	円 銭 6.15	円 銭 —
2019年3月期第1四半期	9.46	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2020年3月期第1四半期	百万円 61,774	百万円 45,212	% 72.9
2019年3月期	60,588	45,460	74.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 45,042百万円 2019年3月期 45,294百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2019年3月期	円 銭 —	円 銭 14.00	円 銭 —	円 銭 14.00	円 銭 28.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	14.00	—	14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,000	5.6	1,600	209.1	1,800	148.4	1,000	—	32.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期1Q	32,009,910株	2019年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	1,180,551株	2019年3月期	1,181,320株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期1Q	30,828,963株	2019年3月期1Q	30,827,030株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループでは、全社ミッションである「世界で認められる日本のおいしさとおもてなしを確立する」の実現を目指し、「Nothing is impossible」をスローガンに、中期経営計画(2019-2021)を開始いたしました。当第1四半期連結会計期間においては、国内では、定番商品の価値訴求キャンペーンを実施いたしました。オリジナリティに富んだ定番商品のおいしさをアピールするとともに、派生商品をご提案し、幅広いお客様からご支持をいただきました。しかしながら人手不足や人件費の上昇、食材や物流費の高騰など、外食を取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が161億31百万円(前年同四半期比1.1%減)、営業利益2億26百万円(同39.1%減)、経常利益2億87百万円(同33.3%減)となり、最終損益は固定資産売却益25百万円、持分変動利益30百万円、固定資産除却損33百万円、法人税等合計120百万円等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益1億89百万円(同35.0%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

## &lt;モスバーガー事業&gt;

当社グループの基幹事業であるモスバーガー事業のうち、モスバーガー事業(国内)においては、主として、以下の施策を展開いたしました。

## ① 定番商品の価値訴求

当第1四半期連結会計期間においては、春の定番とも言える「クリームチーズテリヤキバーガー」を販売しました。特に女性や若い世代に人気があり、毎年200万食以上を売り上げるヒット商品となっております。5月からは、ソースをリニューアルした「テリヤキチキンバーガー」と世界最強クラスの唐辛子を使用した「激辛テリヤキチキンバーガー」を販売いたしました。挑戦的な辛さからSNSでも話題となり、男性を中心に幅広いお客様にご支持をいただきました。

## ② マーケティング施策の見直し

当社では、4月1日付で実施した組織変更においてマーケティング本部を新設し、同本部の中に商品企画・商品開発部門を配置いたしました。これにより、マーケティング主導での商品開発やプロモーション、デジタル施策との連携を図り、売上拡大を目指しております。当第1四半期連結会計期間においては、顧客のターゲットを明確にした商品の導入、テレビCMとともにデジタルメディアを活用し、多面的なコミュニケーション活動を行ってまいりました。

## ③ 多様化するニーズへの対応

全国一律、画一的な店舗づくりではなく、商圈や立地、客層、多様化するお客様の利用動機に合わせて柔軟に商品やサービス、店舗形態を変えていくことで、店舗の収益改善につなげます。当連結会計年度中にテスト店舗の出店、インフラの整備を行う計画で、当第1四半期連結会計期間においては、そのための準備を進めてまいりました。

モスバーガー事業(国内)の店舗数につきましては、当第1四半期連結累計期間においては出店3店舗に対し閉店は15店舗で、当第1四半期末の店舗数は1,307店舗(前連結会計年度末比12店舗減)となりました。

モスバーガー事業(海外)においては、各国・地域ごとの施策を展開いたしました。

## ① 台湾

既存店売上高の増加に加え、6月には植物性タンパク質で作ったパティ「ビヨンド・ミート」を使ったハンバーガーをテスト販売し、健康志向の方を中心に注目を集めました。また、現地経済紙「工商時報」主催で接客サービスなどを評価するアワードの「西洋ファストフード部門」で金賞を受賞いたしました。

## ② シンガポール、香港

シンガポール、香港とも外食文化が根付いており、デリバリー代行事業者を活用した宅配の推進、桜や富士山、招き猫など日本をイメージした店舗デザインが好評を頂いております。また香港では、現地情報誌「u magazine」が主催するアワードの「ファストフード部門」で「FAVORITE FOOD AWARDS 2019」を受賞いたしました。

③ インドネシア、オーストラリア、中国、韓国

各国に根差した店舗フォーマットを確立するため、国ごとにマーケットニーズを調査し、様々な施策のテスト・検証・改善に取り組んでおります。

④ タイ、フィリピン

タイでは、新たな現地パートナーと提携し、今後の事業拡大に向けて出店を加速いたします。新規進出国のフィリピンでは、外食インフラを自社で保有し、大きなビジネス基盤があり、安定した継続経営が可能な現地パートナーと6月に合弁契約を締結いたしました。

モスバーガー事業(海外)の店舗数につきましては、台湾268店舗(前連結会計年度末比3店舗増)、シンガポール37店舗(同3店舗増)、香港26店舗(同1店舗増)、タイ8店舗(同増減なし)、インドネシア4店舗(同増減なし)、中国(福建省・江蘇省・上海市・広東省)14店舗(同1店舗減)、オーストラリア6店舗(同増減なし)、韓国14店舗(同増減なし)となり、海外全体の当第1四半期末の店舗数は377店舗(同6店舗増)となりました。

以上の事業活動の結果、モスバーガー事業の売上高は152億35百万円(前年同四半期比1.4%減)、営業利益8億74百万円(前年同四半期比16.4%減)となりました。

<その他飲食事業>

各業態の当第1四半期末の店舗数は、「マザーリーフ」事業合計で19店舗、株式会社ダスキンのコラボレーションショップ「モスト」事業2店舗、「モスクラシック」事業1店舗、「ミアクッチーナ」事業6店舗、「あえん」事業6店舗、「シェフズブイ」および「グリーングリル」事業は合計で3店舗となり、その他飲食事業の合計で、37店舗(前連結会計年度末比1店舗増)となりました。

これらによるその他飲食事業の売上高は7億10百万円(前年同四半期比3.3%増)、営業損失は1億68百万円(前年同四半期比11百万円の損失減)となりました。

<その他の事業>

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エス、株式会社モスクレジットおよび株式会社モスシャインは、主にモスバーガー事業やその他飲食事業を、衛生、金融、保険、設備レンタル、グループ内業務のアウトソーシング面で支援しております。

これらによるその他の事業の売上高は1億84百万円(前年同四半期比0.6%増)、営業利益は31百万円(前年同四半期比83.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ11億86百万円増加し、617億74百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ10億39百万円減少し、固定資産は22億25百万円増加しております。流動資産が減少した主な理由は、現金及び預金が減少したことによるものであります。固定資産が増加した主な理由は、会計方針の変更により有形固定資産が増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ14億33百万円増加し、165億61百万円となりました。この増加の主な理由は、会計方針の変更によりリース債務が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億47百万円減少し、452億12百万円となりました。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末74.8%から当第1四半期連結会計期間末は72.9%と1.9%減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月10日発表の通期連結業績予想から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,819	8,618
受取手形及び売掛金	4,327	4,097
有価証券	433	432
商品及び製品	2,929	3,466
原材料及び貯蔵品	239	225
その他	1,724	1,592
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	19,468	18,428
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,056	11,676
減価償却累計額	△5,090	△5,357
建物及び構築物(純額)	3,965	6,318
機械装置及び運搬具	203	263
減価償却累計額	△111	△123
機械装置及び運搬具(純額)	92	140
工具、器具及び備品	8,494	8,494
減価償却累計額	△4,876	△5,047
工具、器具及び備品(純額)	3,617	3,446
土地	988	988
建設仮勘定	27	92
有形固定資産合計	8,691	10,986
無形固定資産		
その他	1,993	1,887
無形固定資産合計	1,993	1,887
投資その他の資産		
投資有価証券	17,772	18,160
長期貸付金	3,270	3,044
差入保証金	4,791	4,773
繰延税金資産	326	215
その他	4,372	4,385
貸倒引当金	△70	△84
投資損失引当金	△27	△23
投資その他の資産合計	30,435	30,471
固定資産合計	41,120	43,346
資産合計	60,588	61,774

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,230	3,893
短期借入金	110	150
リース債務	58	1,093
未払法人税等	116	110
賞与引当金	494	246
ポイント引当金	35	37
資産除去債務	39	31
その他	4,550	4,321
流動負債合計	9,634	9,885
固定負債		
長期借入金	2,740	2,511
リース債務	60	1,508
繰延税金負債	3	3
役員株式給付引当金	—	1
株式給付引当金	107	114
退職給付に係る負債	450	443
資産除去債務	431	415
その他	1,701	1,677
固定負債合計	5,494	6,676
負債合計	15,128	16,561
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,009	10,988
利益剰余金	23,318	23,071
自己株式	△1,702	△1,764
株主資本合計	44,038	43,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	964	1,024
為替換算調整勘定	319	330
退職給付に係る調整累計額	△28	△21
その他の包括利益累計額合計	1,255	1,334
非支配株主持分	166	170
純資産合計	45,460	45,212
負債純資産合計	60,588	61,774

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	16,317	16,131
売上原価	8,108	7,935
売上総利益	8,209	8,195
販売費及び一般管理費	7,837	7,968
営業利益	372	226
営業外収益		
受取利息	37	38
受取配当金	28	27
設備賃貸料	42	46
雑収入	51	59
営業外収益合計	159	171
営業外費用		
支払利息	3	21
設備賃貸費用	56	57
持分法による投資損失	2	9
雑支出	37	21
営業外費用合計	99	110
経常利益	431	287
特別利益		
固定資産売却益	21	25
投資有価証券売却益	6	—
投資損失引当金戻入額	—	3
持分変動利益	—	30
その他	—	1
特別利益合計	28	60
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	17	33
減損損失	2	—
投資有価証券評価損	11	—
投資損失引当金繰入額	3	—
特別損失合計	35	33
税金等調整前四半期純利益	424	314
法人税、住民税及び事業税	23	39
法人税等調整額	113	81
法人税等合計	137	120
四半期純利益	286	194
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	291	189

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	286	194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	402	59
為替換算調整勘定	△131	12
退職給付に係る調整額	1	7
持分法適用会社に対する持分相当額	△98	△2
その他の包括利益合計	174	77
四半期包括利益	461	271
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	473	267
非支配株主に係る四半期包括利益	△11	4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、当第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首に資産及び負債を認識しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の「建物及び構築物(純額)」が2,438百万円及び「機械装置及び運搬具(純額)」が54百万円増加し、流動負債の「リース債務」が1,040百万円及び固定負債の「リース債務」が1,458百万円増加しております。当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	モスバーガー 事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	15,446	687	183	16,317	—	16,317
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	20	—	308	329	△329	—
計	15,467	687	492	16,647	△329	16,317
セグメント利益又は損失(△)	1,045	△179	17	882	△510	372

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△510百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△506百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	モスバーガー 事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	15,235	710	184	16,131	—	16,131
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	21	—	320	341	△341	—
計	15,256	710	505	16,473	△341	16,131
セグメント利益又は損失(△)	874	△168	31	737	△510	226

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△510百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△501百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。